



「日本におけるイスラーム(文化)」

はじめに

日本人になじみが薄いとされて久しい「日本におけるイスラーム(文化)」について学ぶ。

日本人としてはイスラーム教徒のことについては、あまり馴染み深くないようである。高等学校の勤務校の授業では、中学校までのイスラーム(文化)の既習内容をあらかじめ確認してから学習を展開する際、初めて聞くという生徒が多い。

ここでは、イスラームという宗教文化に焦点をあて、異文化理解の側面も含めて、多文化共生にアプローチしていきたい。

参加のルール・アクティビティの解説

イスラーム文化についてカードを使って、多文化共生の在り方について考える。グループで話し合うときは、他者の意見を否定しない。最後にふり返しシートを使って、自らの学びをふり返る。

全体のねらい

現在は日本に多くの外国にルーツをもつ人が居住し、就労している。生徒が将来、実社会に飛び出した時、日本人だけのコミュニティとは限らない。現在も多くの外国にルーツを持つ人との多文化共生社会を目ざしていく世の中となりつつある。まずは、相手の文化を知ることから始めていくことが重要である。

本アクティビティでは、イスラーム(文化)やその生活習慣について日常の事例を紹介する。イスラーム教徒の宗教的な行為や異なる価値観に私たちが直面したとき、相手のことをどう尊重するかについて考えたい。すべての人間が行う食事、掃除や毎日の服装が、イスラーム教徒の宗教的な事象と日本人の慣習(または校則などのルール)と、どう折り合いをつけていくべきかなどについて考察する。今後私たちが未知の外国ルーツの人と接した時、それぞれの立場を尊重して行動できること、そして異なる文化・価値観の違う日本人同士でも、お互いの考えを理解した上で、尊重し合える姿勢を培うことにつなげていく。イスラーム文化理解を通して、異文化や異なる価値観に対する理解を深めることの大切さに気づかせたい。

学習計画(全2時間)

イスラーム教徒の生活編

教科・領域との関係

小学校(道徳、社会科)

中学校(道徳、社会科、家庭科、総合的な学習の時間、特別活動)

高等学校(地理A・B → 地理総合、現代社会 → 公共、家庭基礎・家庭総合、
総合的な学習の時間 → 総合的な探究の時間、特別活動)

アクティビティ「イスラーム教徒の生活編」

●概要

中学校を舞台にし、外国にルーツを持つ人との共生についてだけでなく、異なる文化や価値観の人々と、私たちはどう向き合っていくべきかについて考察する。

●ねらい

- ①異文化の理解は、他者理解だけでなく、自己の思考の理解でもあると認識できること。
- ②異なる文化を持つ他者への気配りは、最初はかなり意識して接していく必要があるかもしれないが、まずは相手の考えを受け止め、知っていくことの大切さを理解する。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

導 入：資料1、ワークシート1（P53～55）

生活編：カード1～3（P56～57）、ワークシート2（（グループ学習時）共有記録カード）（P58）、解説シート（P59）、ふり返りシート（P60）

●所要時間

50分×2時間

●用語の解説

- ・イスラーム（イスラム）：神アッラーに帰依（服従）する。
- ・ムスリム（女性：ムスリマ）：神アッラーに帰依（服従）する人
本アクティビティでは、イスラーム教徒で統一表記とした。
- ・ハラル（ハラール）：イスラーム法上、イスラーム教徒が食べることを許されたものや行為
- ・ハラム（ハラーム）：イスラーム法によって禁じられたものや行為
- ・ハラル（ハラール）ビジネス：イスラーム教の戒律に則った食品や日用品を提供するサービス
- ・ハラル（ハラール）認証・認定：イスラーム圏の国の機関が、食べ物の製造工程や調理の工程を検査して、豚やアルコールを使わずに、あるいはそれらと混ざることなく作られているかを確認、合格したものが認証・認定となる（講習・検査は有料）。認証を受けた食べ物がハラル（ハラール）・フード

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>0.（高校生以上の場合－資料1で現在の状況を把握しておくとい。現実社会と直結したアクティビティであることを意識させる。）</p> <p>1. ワークシート1に記入する。 問1～3を考える。</p> <p>2. 生活編のカード1、2、3を全員に配付し考察1、2、3を行う。</p> <p>3. ワークシート2を配付し、グループで意見を交換する。（3～4名が望ましい） <役割分担を決めておく> ・記録係・司会進行・発表者・（進行補助）</p> <p>4. カード1～3の解説</p> <p>5. 生活編ふり返しシートを記入し、グループで、ふり返りを共有する。</p>	<p>（小・中学生も読解できれば、使用可）</p> <p>最初は、教員（ファシリテーター）が声を出して読み合わせ、外国人数やパーセンテージ、国名・業種などに強調の線を色ペンで引くなどするとよい。</p> <p>全員が記入できるまで時間をとる。活動前の自分自身の既存の知識と意識を明確にしておく。（グループで意見交流をしてもよい）</p> <p>始める前に、班の番号やメンバーを記入</p> <p>教員（ファシリテーター）は解説シートをもとに解説する。（終了後に解説を配付してもよい）</p> <p>全体の感想を共有してもよい。</p>

()年 ()組 氏名 ()

日本は人口減少・労働力不足に直面しており、多くの外国人労働者によって、日本の産業は担われている。皆さんが飛び立つ実社会では、外国（にルーツを持つ人々）籍の人が、日本国内で年々増加し、居住・就労している。特に、近年はイスラーム教徒の人が増加傾向にある。

日本全体の外国籍人口295万1365人（参考：在留外国人統計2020年6月）
 世界最大のイスラーム教国インドネシアからは67,051人（主な内訳：技術・人文知識・国際業務3,949人、技能実習35,542人、留学6,158人、永住者6,743人）
 マレーシアからは10,996人（主な内訳：技術・人文知識・国際業務2,175人、留学2,367人、永住者2,920人）

広島県は、県内の外国人労働者数は37,707人。国籍別では、ベトナムが最も多く14,316人（管内の外国人労働者数全体の38.0%）。次いで中国8,784人（同23.3%）。フィリピン5,728人（同15.2%）インドネシア1,973人（同5.2%）の順。（参考：外国人労働者アクセス 広島県の生産年齢人口と外国人労働者数 2020年10月末現在）

福山市の産業別人口内訳では、外国人労働者数4,687人のうち、上位4位が製造業2,917人（62.2%）、卸売業・小売業453人（9.7%）、建設業420人（9.0%）、宿泊業・飲食サービス業188人（4.0%）。
 製造業が圧倒的に多い。製造業が盛んな福山市で技能実習生が活躍していることが分かる。
 （参考：上別府隆男「広島県福山市における外国人労働者の実態、役割と課題 - 多文化共生社会の実現に向けて - 都市経営 No.11 (2019)、pp.01-13」）

日本に滞在し、就労する多くの外国の人々が、地域において自立し社会参加をしていくためには、外国の人々への働きかけだけでなく、私たち日本人がいかに受け入れるかの意識を持つことが重要である。日本の多文化共生のアプローチは、日本語学習支援やイベント実施など国際交流面は全国的に進みつつある。しかし、宗教に関する取り組みは、最も外国籍の方が多く居住する東京都でも不足している実態があり、特に近年増えているイスラーム教徒の人の生活実態に即したアプローチを考えていく必要がある。
 （参考：「東京 23 区における多文化共生政策に関する現状と課題についての一考察」）

ワークシート① (両面印刷)

()年 ()組 氏名 ()

○イスラームについて知っている場合は () に○を入れよう。

- 1 唯一神アッラーのみが神である。 ()
- 2 1日5回、サウジアラビアのメッカの方向を向いて、お祈りをしなければならない。 ()
- 3 アルコール(酒)を飲んではならない。 ()
- 4 豚肉を食べてはならない。 ()
- 5 女性はみだりに肌を見せてはならない。 ()

○次の状況について、あなたは思うか。

- 1 あなたの宗教は何ですかと尋ねられ、「特にありません」と答えたら、驚く人。
()
- 2 宗教に熱心な人が、頻繁にお祈りをすること。(場合によっては、授業中や仕事中也決まった時間になると、お祈りすること。)
()
- 3 絶対にお酒を飲まないだけでなく、飲酒をとまなう会食も拒む人。
()
- 4 教室や仕事場など、室内でもかぶりものをとらない人。
()

註：1について、日本では特定の宗教を信仰していないことが一般的のようであるが、世界的には特定の宗教を信じて生活している人が一般的である。

問1：あなたの身近に、1～4の人がおられたら、どんなことに気をつけてあげるか？

場合によっては、クラスのルール、学校の校則、会社のルール、日本の法制度など、日本社会のシステムを変える必要も生じるのか。

とい
問2：あなたの気づきを書いておこう。

とい
問3：あなたにとって、異文化理解や多文化共生社会の言葉のイメージは、どんなイメージか。
アクティビティ実施前のイメージを書いておこう！

カード 1~3

() 年 () 組 氏名 ()

インドネシア人親子が、日本の大学に留学した夫とともに、E県で暮らすことになりました。

カード 1

Dちゃんは、中学校へ通うことになりました。Dちゃんの通う中学校は、毎日のお昼ご飯は給食です。Dちゃんはイスラーム教徒として安心して食べられる物を入れたお弁当を持っています。ところがしばらくすると、日本各地で、様々な国からの外国人労働者の食事を大切に、世界の食文化に寛容な国に日本はなるべきだ。まずはハラルフードが準備できることが大切だという考えが報道されたり、SNSなどでツイートされるようになったのです。日本の学校でも、イスラーム教徒の多い学校は、高額のコストがかかってもハラル認証をとった給食の方がいいの、議論になりました。このことは給食だけでなく、大学の食堂やレストランでも同じことが話題となっていました。

考察 1：ハラルフードを使った給食の導入について、あなたはどのように思いますか。

カード 2

Dちゃんは、中学校へ通うことになりました。Dちゃんは、最初は日本とインドネシアの学校の違いにとまどうこともありましたが、持ち前の明るさと人懐っこさで、乗り切ることができたように見えました。しかし何故か、月に1回、決まって水曜日に学校を休むのです。その日は、Dちゃんの学校では、校外清掃奉仕活動をLHRの時間に取り組んでいる日でした。全校生が熱心に清掃するので、近隣住民の方々からも、町がきれいになると、大変喜ばれている活動でした。次第にクラスメイトもDちゃんがいつも校外清掃奉仕活動の日にはいないことを気づき始めました。

考察 2：校外清掃奉仕活動の日、Dちゃんはどのようにして学校を休んでしまうのでしょうか。

カード3

Dちゃんは、中学校へ通うことになりました。Dちゃんは、普段からとても明るい性格で、そしてがんばって日本語も勉強し、日常会話がすぐにできるようになり、友達がたくさんできました。

ある日、Dちゃんと同じクラスに、イスラーム教徒のインドネシア人の女の子Sちゃんが転校してきました。彼女はまた日本語があまり話せないのので、Dちゃんが通訳してあげていました。2、3日経つと、クラスのみんなからSちゃんは「教室の中では、帽子やかぶりものはいけないだよ。とりなよ!」と責められていました。敬虔なイスラーム教徒であるSちゃんは常にヒジャーブ*を巻いていました。

Dちゃんは、その様子に驚いてしまいましたが、転校生のイスラーム教徒のことをクラスのみんなにわかってもらいたかったので、まずは担任の先生に相談しました。そしてイスラーム教徒の服装について、Dちゃんが帰りの会でクラスのみんなに説明したらどうかとアドバイスをうけ、その日のうちに実行したのです。

「私たちイスラームの女性は、戒律（イスラーム法）で、みだりに肌や髪を見せてはならないという決まりがあるから、各自がそれぞれに工夫した服装をしているの。神様との約束なのよ。日本の習慣とは異なって、ごめんなさい。でも、宗教のことはわかってほしいの。」クラスのみんなは、Dちゃんの熱い訴えに共感し、転校生のSちゃんにも「知らなかったんだ。熱心なイスラーム教徒だったんだね。」と理解を示してくれました。

Dちゃんは放課後、バレーボール部で汗を流し、帰宅しようとしたところ、友人から声をかけられました。彼女が言うには、帰りの会のDちゃんの説明はよくわかった。だけど、「正直、気を遣うのは面倒だよ。同じイスラーム教徒でもDちゃんがかぶりものをしていないから、バレーボールをしていても違和感がないのよ。（セリフ）。」

*ヒジャーブ：イスラーム教徒の女性が頭を覆うスカーフ。もともとはアラビア語で「覆うもの」を意味する名詞。

考察3：クラスの友達の「（セリフ）」を考えてみましょう。

（セリフ）

ワークシート②：(グループ学習時)共有記録カード

() 班 はん メンバー：

各カードの気づきをグループで出し合おう！ (細かな点も記入しておく)

カード1

カード2

カード3

○3枚のカードに共通する特徴などを書いておこう！

かい せつ

解説 カード1について

日本人は、イスラーム教徒は酒と豚肉が戒律（イスラーム法）で飲食することを禁じられているだけと誤解しがちである。どこまで飲食することが許されるかは、厳密に言えば、各自が判断して構わない。豚肉以外の肉であっても、牛肉や羊肉は屠殺の仕方や家畜に与えられたエサなども決まりがあり、どこまで守るかというのもイスラーム教徒によって異なる。調理器具も豚を調理したもので料理をすることを気にする人、気にしない人それぞれである。しかし、日本に来たからと言って、「郷に入れば、郷に従え。だからハラールにこだわらな！」というのは、イスラーム教徒を否定することになり、イスラーム教徒は日本で暮らせなくなってしまうことになる。

かい せつ

解説 カード2について

校外清掃奉仕活動のような行動は、仕事のない人がするものであり、頭ではわかっている、どうしても受け入れられない。

インドネシアでは、公共の場所などは、個人ではなく清掃業者や、普段仕事のない人（国によっては身分が低い人）が駄賃をもらって行うものであるという考えがある。毎日の教室の掃除も、本来であれば意に沿わないが、自分の家を掃除するように、使用した場所は掃除をするのが、日本では当たり前で、当番も決められているので、Dちゃんは仕方なく教室清掃はしていたようだ。しかし、校外清掃活動については、インドネシアと違いすぎて納得がいかなかった。そのため、どうしてもその日は学校へ行けなくなってしまった。

実際に、筆者が青年海外協力隊員時代、同期の青少年活動隊員に触発されて、インドネシアの道路（インドネシアはポイ捨て文化であり、道路・公共施設はゴミだらけのところが多かった。）の清掃活動を行ったが、そのボランティア活動はやめてほしいと言われた。それは、ゴミ清掃をする人の仕事を奪っているとも捉えられたようであった。

かい せつ

解説 カード3について

（セリフ）「Sちゃんも（例：Dちゃんみたいに、かぶりものをとれたらいいのに。）」

イスラームの戒律は人によってどこまで守るか決めていいとしても、各個人の信仰の在り方について、つい勝手に私たちは判断したり、相手が合わせてくれることを求めているだろうか。

クルアーン*第24章31節には、女性は親族以外の男性に自分の美を見せないよう、身体を覆うようにという記述がある。どのような衣装を身につければよいのかについては記載されていないことから、地域や時代ごとに多様な衣装が登場した。国によっては、西洋の影響で、思い思いの髪形をした衣装の女性も多く見られる。

*クルアーン：あるいはコーラン。イスラーム教（イスラーム）の聖典。

() 年 () 組 氏名 ()

○ケーススタディで学んだことから、よりよい多文化共生社会へ向かうために、あなたなら次の質問にどう答えるか。

今後、多くの外国ルーツの人とともに暮らしていくことになっていく。言葉がわからなかったり、習慣が異なったりする人々もたくさんいる。多文化共生社会をめぐって、あなたにはどんなことができると思うか。

○アクティビティ後の多文化共生社会のイメージを再度書いてみよう！

(アクティビティの前後で、多文化共生社会に対するあなたのイメージは変化があっただろうか。)

おわりに

本アクティビティではイスラームの宗教の特徴を知るために、生活編から異文化理解につながるアプローチを行った。私たち日本社会が外国にルールを持つ人々（外国の方、外国人）など異なる文化の人々を排除するのではなく、お互いに譲り合い、折り合いをつけながら、共生への努力を積み重ねていくことが大切である。しかしその状況はなかなか自然には発生しにくい。本アクティビティのケーススタディにより、多文化共生を考える第一歩となれば幸いである。

そしてこれは日本人同士であっても、苦手意識のある人を無視するのではなく、共に生きる者として対話を重ね理解しようと、日々努力していくことが、多文化共生社会の実現に必要なのではないだろうか。異文化理解からアプローチした本アクティビティの試みが、他者理解そしてひいては自己理解へとつなげ、共に生活する空間の中で、自身の居心地の良さだけでなく、居心地の悪い思いをしている人のことも考えながら、一つひとつの課題を直視し、可能な限り克服に努力していき、多文化共生社会構築に向けて行動する姿勢を培いたい。

参考資料

<主要参考文献>

（多文化共生教育関連）

- ・ 上別府隆男「広島県福山市における外国人労働者の実態、役割と課題 ―多文化共生社会の実現に向けて」都市経営 No.11 (2019)、pp.01-13
- ・ 原沢伊都夫『グローバルな時代を生きるための 異文化理解入門』研究者2013年
- ・ 松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』明石書店2011年

（イスラーム関連）

- ・ 飯山陽『イスラーム2.0 SNSが変えた1400年の宗教観』河出新書2019年
- ・ 小村明子『日本のイスラーム 歴史・宗教・文化を読み解く』朝日選書2019年
- ・ 小杉泰・小杉麻李亜『イスラームという生き方（上）（下）』NHK出版
ラジオ第2放送 NHK宗教の時間テキスト2017年4月～9月
- ・ 後藤明・山内昌之編『イスラームとは何か』新書館2003年
- ・ 笹川平和財団『アジアに生きるイスラーム』イースト・プレス2018年
- ・ 椿原敦子・黒田賢治『『サトコとナダ』から考えるイスラーム入門 イスラーム教徒の生活・文化・歴史』星海社新書2018年 p.110
- ・ 中田考監修 中田香織/下村佳州紀訳 「日垂対訳クルアーン〔付〕訳解と正統十読誦注解」訳著 松山洋平 責任編集 黎明イスラーム学術・文化振興会 作品社2014年
- ・ 中田考・飯山陽『イスラームの論理と倫理』昌文社2020年
- ・ 中田考&天川まなる『ハサン中田考のマンガでわかるイスラーム入門』CYZO 2020年
- ・ ハスナ（日本人）『笑える 腹立つ イスラーム夫と共存中』飛鳥新社2018年
- ・ 内藤正典『となりのイスラーム 世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』ミシマ社2016年

- ・認定特定非営利法人開発教育協会DEAR (Development Education Association and Resource Center)
『市民学習実践ハンドブック 教室と世界をつなぐ参加型学習30』 (2009年)
- ・独立行政法人国際協力機構『JICA地球ひろば国際理解教育実践資料集～世界を知ろう! 考えよう!』 (2013年)
(イスラーム関連)
- ・飯山陽『イスラーム教の論理』新潮新書2018年
- ・井筒俊彦『イスラーム生誕』中公文庫1990年
- ・井筒俊彦『イスラーム文化 その根柢にあるもの』岩波文庫1991年
- ・小川忠『インドネシア 多民族国家の模索』岩波新書1993年
- ・片倉もところ『イスラームの日常世界』岩波新書1991年
- ・小杉泰・黒田賢治・ニツ山達朗編『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版2018年
- ・坂本勉『イスラーム巡礼』岩波新書2000年
- ・鈴木規夫『日本人にとってイスラームとは何か』ちくま新書1998年
- ・内藤正典『イスラームから世界を見る』ちくまプリマー新書2012年
- ・内藤正典『イスラームからヨーロッパをみる ー社会の深層で何が起きているのか』
岩波新書2020年
- ・内藤正典・中田考『イスラームとの講話 文明の共存をめざして』集英社新書2016年
- ・中田考『イスラーム 生と死と聖戦』集英社新書2015年
- ・中田考『イスラーム入門 文明の共存を考えるための99の扉』集英社新書2017年
- ・中田考『イスラーム法とは何か?』作品社2015年

<主要参考URL>

- ・在留外国人統計2020年6月
(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20200&month=12040606&tclass1=000001060399>)
- ・外国人労働者アクセス 広島県の生産年齢人口と外国人労働者数 2020年10月末現在
(<https://gai-access.com/hiroshima/>)
- ・国際交流基金報告書「インターカルチュラル・シティと多文化共生」 (2014年) p.18
(https://www.jpf.go.jp/j/publish/intel/intercultural_city/pdf/Intercultural%20City_j.pdf)
- ・井澤 和貴・上山 肇「東京23区における多文化共生政策に関する現状と課題についての一考察」
法政大学 地域イノベーション第10号 (2019年)
(<https://hurin.ws.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/20190425izakami.pdf>)
- ・木村光伸・佐伯奈津子・人見泰弘「外国人・難民問題にどう取り組むか」名古屋学院大学論集2018年
(http://www2.ngu.ac.jp/uri/syakai/pdf/syakai_vol5501_06.pdf)
- ・【実施報告】2020年度JICA中国 開発教育教員研修アドバンスコース フィールドワーク (広島県東広島市)
地域に根差した「広島イスラーム文化センター」
(<https://www.jica.go.jp/chugoku/topics/2020/ku57pq00000m80at.html>)

<参考URL>

- ・授業で使えるショート映像集 (アクティブラーニング教材) | プログラム紹介 - JICA地球ひろば
(<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/video/index.html>)
- ・「イスラーム」2017年度 開発教育教員研修 授業実践報告 広島県立安西高等学校 中須賀裕幸
(https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/video/jhqv8b0000007ktu-att/islam_yasunishi-h_houkoku_01.pdf)